

寒冷地形談話会通信

1998年度第 1 号 1998. 4. 17発行

事務局：〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

東京都立大学理学研究科地理学教室寒冷地形談話会事務局

TEL. 0426-77-1111 (EXT. 3836) E-mail: pukuun@geog.metro-u.ac.jp

URL: www.comp.metro-u.ac.jp/~sugimoto/kanrei/

昨年に引き続き、今年度も東京都立大学が事務局を担当することになりました。昨年以上に寒冷地形談話会を盛り上げていくように頑張りますので、ご支援のほどよろしくお願いします。

・5月例会のおしらせ

日時：1998年5月16日(土)15:00～

場所：明治大学大学院棟(教室は当日掲示します)

JR 中央線お茶の水駅下車徒歩5分

演者・演題

青木賢人 (東京大学・院・地理)

「現成氷河の質量収支から検討した AAR (Accumulation Area Ratio) 法の妥当性」

奈良間千之 (都立大・院・地理)

「西パミール・Raygorodeskogo 氷河の小氷期以降の氷河変動」

今年度最初の例会です。ふるって御参加下さい。

・寒冷地形談話会総会報告 (3月29日、於：国士舘大学、参加者45名)

国士舘大学でおこなわれた日本地理学会1998年度春季学術大会2日目(3月29日)に、寒冷地形談話会総会を「山岳永久凍土研究グループ」のミーティングと合同で開催しました。総会の内容については以下の通りです。

- ・1998年度の事務局は、東京都立大学が引き続き事務局を担当することが承認されました。
- ・例会発表者は、その年度の会費を無料にするという意見が出されましたが、現状通り例会後のコンパ代を無料にするということになりました。
- ・寒冷地形談話会通信の発送を、電子メールのみでおこなっている「メール会員」の会費を安くできないか、という意見が出されましたが、「メール会員」の会員数が現時点ではまだ少ないため、とりあえずは現状通りとし、「メール会員」が現在よりも大幅に増加した時点で、「メール会員」の会費の値下げを検討することにしました。現在、寒冷地形談話会の支出のほとんどが寒冷地形談話会通信の郵送料となっており、電子メールを使用できる会員に対しては、「メール会員」への変更を促進していくことになりました。
- ・「日本100名山の山の自然学」についてですが、古今書院から送っていただいた趣意書を参加者に配布しました。文面は以下の通りです。

1992年、寒冷地形談話会20周年を記念して、古今書院で『山の自然学入門』が刊行されました。おかげさまでこの本は好評で、山の自然に関する新たな読者層を開拓することに成功いたしました。

『山の自然学入門』についてはいずれ改訂を予定しておりますが、紹介していない山についてもその後の研究の蓄積があることは編集担当者として気になっていました。そこで今回、月刊地理の連載にて近年の成果をご報告いただく企画を考えました。

前作同様、皆様にご協力いただければ幸いです。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

題：百名山の自然学

なぜ百名山か：百名山ばかり話題になる最近の風潮には問題がありますが、百名山ブームが登山の底辺をひろげたことは確かです。月刊地理の読者はすべて登山をする人とは限りませんが、軽い登山には興味をもつ方が少なからずいるようです。そういった方に親しみやすい内容という趣旨で、今回の企画では対象を「百名山」に限定します。ただ登っておしまい、という風潮を少しでも変えることができれば、と考えています。

すでに紹介した山は除きます：『山の自然学入門』は60山を紹介しましたが、そのなかに百名山がかなり含まれています。今回の企画では、未紹介の山を対象とします。

内容：『山の自然学入門』に準じます。普通の登山者でも理解できることが原則です。網羅的な紹介よりも、この山ではこの自然に注目してほしい、というテーマをつけてください。テーマは学術的内容以外に、自然破壊問題などの社会性のある内容でもかまいません。逆にいえば、全体像が充分書けない山であっても、一つのテーマを読者に提供いただく内容であれば歓迎いたします。

原稿分量：『山の自然学入門』の見開き程度（写真によっては別にカラー口絵を用意します）。ただし、地図とモノクロ頁に掲載する写真（原画はカラーで可）は必ずご用意ください。1200字＋地図、写真2点程度が目安です。

連載予定：執筆可能な山がどれだけあるかによりますが、全20話程度継続したいと願っています。計画が出来次第、早ければ夏頃からスタートします。

若干の修正をお願いするかもしれませんが：前作を引き継ぐ内容であり、また連載としても読者が連続性をもって読めるように、原稿に対して修正のお願いをすることがあるかもしれません。編集は、古今書院の関と前作編者2名の方で行う予定です。どうかご了承ください。著者校正は1度ありますので、原稿分量などの微調整はそこでできます。

雑誌掲載後：まとめて本にする予定です。『山の自然学入門』の改訂時に含める可能性もあります。

以上、執筆いただけたような山がございましたら、寒冷地形談話会事務局または古今書院の関秀明まで、ご連絡ください。第1次募集期間は4月末日までです。掲載予定をたてたうえで、改めて執筆要領ほかを古今書院よりお送りいたします。また、別途ご依頼をするかもしれません。その折にも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

古今書院 編集部 関秀明

〒101-0062 千代田区神田駿河台2-10 TEL03-3291-2757 FAX03-3233-0303

・「山岳永久凍土研究グループ」の活動について

山岳永久凍土研究グループのミーティングではグループの活動に関する配付資料がありましたので以下に掲載します。

「山岳永久凍土研究グループ」の活動について

グループ設立の趣意

- (1) 過去・現在・将来の日本の山岳永久凍土帯に関する正しい認識
 - ▼従来は富士山・大雪山での限られたデータからすべてが語られていた
 - ▼日本の全山岳永久凍土帯を対象
- (2) 岩石氷河とモレーン、プロテラス・ランパート、地すべり・崩壊地形などを区別するための基準の作成
 - ▼カール内の堆積地形の成因について徹底的な議論を
 - ▼氷河地形・周氷河地形・地すべり地形などの各分野の研究者の議論が必要
- (3) 複数の機関に属する研究者間の研究交流
 - ▼観測・解析手法に関する情報交換
 - ▼機材・人員を必要とする観測(電探・測量・地温観測)での協力
- (4) 国際山岳永久凍土研究グループとの提携
 - ▼日本が担当すべきは火山の永久凍土、化石岩石氷河の研究、情報不足の地域の研究など？

活動期間 4年間 (1998-2001年度)

活動内容

- (1) 寒冷地形の例会と合同で年2回程度のミーティング開催
 - ▼今年度は6月下旬に夏の調査に向けての情報交換？
 - ▼11月～12月に成果の報告会？
- (2) 年1回程度巡検か共同調査の実施
 - ▼大雪山・北アルプス・南アルプス・希望があれば海外も
 - ▼今年度は？
- (3) 共同研究・調査の推進
 - ▼日本一現在およびかこにおけるすべての山岳永久凍土帯
 - ▼海外一典型的な地域(スイスアルプスなど)
—情報不足の地域(南極・ヒマラヤ・カムチャッカなど)

研究成果の発表方法

- (1) 地理学会での個人・グループ発表
- (2) 国際地形学会議(2001年：日本)での発表
国際永久凍土学会(2003年：スイス?)での発表
- (3) 研究グループとしての出版物???

連絡方法 当座は寒冷地形の連絡網を利用

世話人 筑波大学 松岡憲和 (matuoka@atm.geo.tsukuba.ac.jp)

今回のミーティングでは、まず、活動についての説明が行われ、次に各大学で行っているもしくは今年度実施する予定の調査についての情報交換、6月下旬のミーティングに関しての意見交換が行われました。6月下旬のミーティングについては、極地研で永久凍土の探査についての技術講習(電気探査など)と研究発表会をやるということになりました。このミーティングについては、次号で詳細についてお知らせする予定です。

・住所および連絡方法の確認についてのお願い

新名簿作成のため、寒冷地形談話会会員を継続するか否か、現在の住所(7ケタの郵便番号を明記)、所属、e-mailアドレスを、同封のはがきにご記入のうえ、事務局宛にご返送下さい。はがきは**5月10日**までにご投函下さい。なお、e-mailアドレスをお持ちの方は、寒冷地形談話会通信の発送を電子メールのみとする「メール会員」への移行にご協力下さるよう、お願いします。

・『羽田野誠一地形学論集』の頒布について(2報)

前号の通信で予告いたしましたが、3月20日に『羽田野誠一地形学論集』を刊行いたしました。箱入りB5ハードカバーで約400頁のボリュームです。内容は、論文のほか発表要旨など76篇が収録されており、本人の書き込み、メモなどをそのまま印刷したユニークなつくりとなっています。また、口絵には、羽田野さん自身がデルマで描いた判読写真(実体視可能)も掲載してあります。

発売元は古今書院で、税込み定価7350円です。

今回、寒冷地形の会員には、以下の特価で頒布いたします。

ご希望の方は、下記要領でお申し込み下さい。

特 価 1冊5000円(税・送料込み)

申込方法 下記振替口座に冊数・送付先を明記のうえ代金を
振込んで下さい。振込み確認後、送付手配いたします。

口 座 名 : 羽 田 野 論 集 刊 行 会

郵便振替番号 : 00170-6-28751

*領収書が必要な場合は振込み用紙に宛名など明記下さい。

**納品書・請求書などが必要な場合は、古今書院からお求め下さい。

ただし、この場合は定価となります。

<お問い合わせ等> ㈱立地研究所 清水長正
TEL 03-5478-8324/FAX 03-5478-8325

・geoメーリングリストのお知らせ

東京経済大学の山田晴通さんより以下の文面を通信に是非掲載してほしいとの連絡を頂きました。

インターネットの普及とともに、電子メールを利用する地理学研究者も多くなってきました。

すでに海外では、もっぱら地理学(あるいはその一分野)について意見や情報を交換するメーリングリストが、活発に活動しています。しかし、今のところ(1998年3月現在)、日本語で地理学に関する情報をやりとりする、オープンな(誰でも参加できる)リストは存在していないようです。

そこで、地理学研究者を中心として、地理学に関心がある方々が広く参加できる形で、メーリングリストをとにかくも立ち上げてみることにしました。名称は、
geoメーリングリストです。

このリストは、広い意味で地理学に関することであれば、どのような話題でも歓迎します。

人文地理、自然地理の区分もなく、できるだけ情報が流れるようにしていきたいと思います。

特に各地で開催される地理学関係の研究会等の情報や、新しく発表された論文等の紹介、その他、地域的には情報が流れても全国的にはあまり知られていないような情報を積極的に提供して下さい。

geoメーリングリストは、誰もが参加できる「オープン型」のメーリングリストです。

登録/削除などはメールコマンドを送付することによって自動的に行われます。

geoメーリングリストへの参加を希望される場合は、

Majordomo@mlair.ne.jp

あてに

subscribe geo

とだけ本文に記したメールを送信して下さい。

間もなく、コマンドの結果を知らせるメールが来ます。それで参加手続きは完了です。

参加されましたら、できるだけ早めに自己紹介のメールを投稿して下さい。

投稿先は

geo@mlair.ne.jp

となります。

コマンドヘルプが必要な場合は、

Majordomo@mlair.ne.jp

あてに

help

とだけ本文に記したメールを送信して下さい。

Geoメーリングリストをサポートしているプロバイダによるコマンドの解説は、

http://www.air.ne.jp/maillinglist/ml_command.html にあります。

送信先に ご注意下さい

- ・参加したい、やめたい、過去のメールを見たい．．等々
コマンドを

Majordomo@mlair.ne.jp へ

- ・投稿したい
(まず、参加手続きをした上で)メッセージを

geo@mlair.ne.jp へ

- ・問い合わせたい
ご用件を

geo-owner@mlair.ne.jp へ

geo メーリングリストは、山田個人の責任において、1998年3月25日より運営を開始するもので、当面の間は最低3年程度の継続的な運営を目指しています。

このリストへの参加はもちろん、無料です。

ただし、このリストの維持にカンパしてやろうという奇特な方がおいででしたら、山田にどうぞおめぐみを。

〒185-8502 国分寺市南町1-7-34 東京経済大学 山田晴通研究室

Tel/Fax 0423-28-7923

お問い合わせはTEL/FAXでもOKです。

山田晴通 (東京経済大学 コミュニケーション学部 助教授)